

特集

# 佐賀の年始め

令和に年号が改められて初の正月を迎える2020年。原点回歸して佐賀の伝統的な新年の行事を体験してみるのはどうだろうか。佐賀市民なら一度は足を運んだことがあるであろう、佐嘉神社の初詣や十日恵比須、伊勢会。改めて取材してみると、伝統を大事にしながら、多くの人に「福」を呼び込むよう頑張っていることが伝わってきた。新たな年を、佐賀をさらに元気にする一年にするべく、御利益いっぱいの新

年行事をもっともつと賑やかにしよう。

「神様と人間は親子のよう

な関係。子どもがはしゃぐ様子を見て、親が安心するように、人間が神様の前で盛り上がる

と、神様も喜ばれます。鎌倉時代に定められた武家法「御成敗式目」の第一条に『神は人の敬により威を増し、人は神の徳によりて運を添う』とあるように、たくさん

の人の尊敬の念によって神様の威光は大きくなり、人の運氣が上がっていく。つまり、賑やかになればなるほど御利益がある、ということ

です」と教えてくれたのは佐嘉神社権宮司の佐野安正さんだ。人が集まることによって、神様の力が

が高まり、それが御利益となって返ってくる。するとますます参拝者が増えて、御利益もさらにアップする。そういう「正」のスパイラル（循環）が起きているという。

同神社の初詣には毎年平均35万人が訪れる。最近では若い人たちの姿も増えているという。「伊勢神宮の式年遷宮が話題になった5年前あたりから神様への関心が高まったと感じています。初詣は神様にこれまでの一年を無事に過ごせたことを感謝するとともに、新たな一年を無事に過ごせるようにお願いすること。今回は令和という新しい元号となつて初めての正月となるので、特別な気持ちで参拝される方も多いと思います」。

## ■ 鰯雑煮で運氣上昇

年末年始、同神社では特徴的な行事が行われる。中でも人氣が高いのが「鰯祭」と「鰯座」。佐賀藩藩祖の鍋島直茂公が朝鮮の役から伊万里港に帰り着いたとき、直茂公の御座船に鰯が飛び込んだ。佐賀では鰯を「ブイ」と呼んでいたことから「武威が上がった」と喜ばれたという故事が由来となつているという。以来、毎年大晦日には鰯を奉納し、開運、大漁、家内安全、商売繁盛を祈念する「鰯祭」が行われている。また正月には奉納された鰯を雑煮にしている。午前零時、午前11時、午後1時半の3回、本殿での年頭

## 賑わえば 賑わうほど御利益

### 佐嘉神社



祈願の後に行います。毎年愉しみに来られる方も多く、人氣のある行事です。鰯雑煮もちろん美味しいです。佐賀の町の親神さまである直茂公のことを知ってほしいと思います」と佐野さん。初穂料は1人3000円。事前の予約が必要だ。

もちろん「八社詣巡り」も忘れてはいけません。同神社境内には文化・学問から開運・商売繁盛、家内安全、水難除け、縁結びなど御利益が異なる8社があり、すべてを詣でることによって運氣を高めることができる。初詣の際には忘れずに巡ってほしい。

「佐嘉神社は佐賀の街の中心となる神様をお祀りしています。人が集まると神様が喜び、街全体が幸せになつていきます。これまでの伝統を守りつつ、今後は街に住むいろんな人たちと一緒に、街を賑わわせていきたい、と考えています」と語る佐野さん。令和で最

## 権宮司 佐野安正さん

初となる初詣。賑やかにすること  
で佐賀の街をもっともつと元気に  
しよう。

詳しくは2・3ページへ





## 若者ターゲット 新たな企画も



### INFO

1/9 宵えびす  
16:00 - 21:00  
1/10 本えびす  
7:00 - 16:00  
與賀神社境内

## 十日恵比須



### 第49代大恵比須 牟田清敬さん

「佐賀市に住んで23年、十日恵比須には毎年家族と行っています。愉しきは福引きと福もち投げ。もらったものは焼いて砂糖醤油につけて食べると最高です」と語るのは第49代大恵比須に就任した弁護士牟田清敬さんだ。

■本業しながら準備

佐賀恵比須神社は明治37年、佐賀の有志が兵庫県西宮市にある西宮神社に詣でて、恵比須大黒の御神像をもらって帰り祀ったのが起源。大正13年には與賀神社境内に恵比須社の石祠を建立した。恵比須大明神は海の彼方から宝物を大船に満載してやってきて、住民に分け与え、徳を施す神。農漁商工業の繁昌、家内安全、交通安全などに御利益があるとされている。十日恵比須大祭が現在の形式になったのは昭和47年から。佐賀の正月の風物詩として親しまれ、1月9日の宵えびすと10日の本えびすは多くの市民で賑わう。

十日恵比須大祭は「大恵比須」のもと、第49代は3人の「福恵比須」、29人の「小恵比須」により運営される。大恵比須は歴代の経験者らが指名。福恵比須、小恵比須は新たに選ばれた大恵比須が選ぶ。小恵比須は神事部、景品部など各担当に分かれて準備を進める。福恵比須はそれぞれの部を兼任し

ながらフォローする。「令和の時代に入り、最初の大恵比須を拝命させていただくことは、大変光栄であり、また身の引き締まる思いでした」と牟田さんは指名された当時の心境を振り返る。「大恵比須の仕事はなによりスタッフを集めること。全員に直接声を掛けて参加してもらいました。みなさん仕事をしながら準備を進めてもらっています。本業の忙しい中で時間を割

いて動いてもらう姿に、『助けてもらう』という言葉を実感しています」。

### ■佐賀を元気に！

福もち投げや福笹など、楽しみが多い十日恵比須大祭だが、なんととっても人気なのが福引き。今年は大恵比須賞として旅行券や電化製品が用意されているという。福引きに参加するた

めに必要な「えびす福運券」は、『寄付』に対する返礼として御札とともに手渡される。「販売ではなく、あくまで『寄付』です。これまで少々あいまいな部分がありました。法律家としてそこはしっかりとっておきたいと思っています。みなさんから集めた『寄付』を景品や運営費に使用します」。今風にいうならば、「お祭りでは佐賀を元気にしたい！」というクラウドファンディングの

リターンが「福引き券」と「御札」ということになるだろうか。

「恵比須さんだから、商売繁盛のために役立ってみなさんに笑顔になってほしい。今年は平日の開催ですが、宵えびすのステージはいつもと違い、若い人たちに楽しんでもらえるようなプログラムを考えています」と牟田さん。宵えびすステージの司会は地元のアイドルデュオ・ピンキースカイのひとり、だーゆん（園田有由美）さんが務める。「佐賀乙女みゅー☆スター」や「ティーンズミュージカルSAGA」など佐賀の若いアーティストが出演する。また本えびす大祭早朝には、『本家』である西宮神社で有名な「福男レース」が初めて行われる予定だ。

「佐賀を元気にしたい、という思いがモチベーションになっています」と語る牟田さん。佐賀市は800体以上の恵比須像があり、一説には日本一の数だという。恵比須さまに守られた佐賀の街を、さらに楽しく盛り上げるためにも令和最初の日恵比須大祭で商売繁昌を願おう。

「九州のお伊勢さん」として親しまれる伊勢神社は、今からおよそ460年前、神埼に住んでいた杉野隼人が18歳からの27年間毎年2回、三重県の伊勢神宮に参詣したことから始まる。計53回に及ぶ信仰心に感激した伊勢神宮側が日本で唯一となる分霊を許したことが伊勢神社の起源となっている。「片道600キロの道のりを1カ月かけて、ほぼ歩いて往復していた」とされています。室町時代末ですら世情も不安定で、寝食だけでも大変な苦労があったと思います。先人の偉業の上に、我々

## ■分霊は全国唯一

佐賀市の伊勢神社で毎年2月10日夕方から翌日まで開催される伊勢大神宮大祭。商売繁盛、五穀豊穡、子宝安産、進学合格、開運などの御利益を祈願する同大祭を運営するのが「伊勢会」だ。令和最初の神事を担当する第98代大神に指名された中央警備保障株式会社代表取締役・古賀俊海さんは「歴代、錚々たる知名士が務めてきた大役。まだ成長途上の企業の創業者にできるのかと思いましたが、祖母が天山神社の出身だったという神縁もあり、謙虚な気持ちでお引き受けしました」と語る。

の生活があるのだと実感しています」と古賀さんは語る。当初は、吉野ヶ里町の田手神社に祀られていたが、1565年に貿易市で賑わっていた佐賀市鍋島の蛸久天満宮にご神体を移した。その後、1574年に佐賀藩祖・鍋島直茂公が築城の際に現在地に建立した。

1884年（明治17年）に佐賀米会所が設立されると、米穀商が「伊勢講（佐賀商工会議所の母体）」を結成。毎年2月11日に伊勢神社前で米相場を開くとともに、商売繁盛と五穀豊穡を祈願し、売買手

「伊勢会」は大神のほか、4人の指定小神、佐賀市内22地区から選ばれる小神で形成されている。大神は経験者が選考。指定小神は大神が指名して秘書役として小神の中心として働く。小神は各地区ご

とに選考される。大神、小神ともに「一世一代」で任期は1年だが、前年から見習いとして年間数回の神事に同席する。「小神は担当地区のみなさんと伊勢会をつなぐと同時に、大祭当日に向けた準備を分担して行います。それぞれ自分の仕事をこなしながらですので、本当に大変な役割だと思います」と古賀さん。

本番となる大祭は小神は全員羽織袴姿、大神は赤い特別な装束で24時間、一睡もせずに務める。「装束がきつくて、本当に大変です。各地区の商売繁盛、五穀豊穡を

## 第98代大神 古賀俊海さん



## 伊勢会

### INFO

1/10 午後5時～  
翌日午後3時  
伊勢神社



## 地区を代表24時間一睡もせず

